

ニーズ・シーズマッチング交流会2022 併催セミナー(案)

～ 基調講演 & 特別講演 ～

大阪会場

令和4年11月28日(月) 13時30分より

- 会場で聴講 → OMM(2階展示Aホール)
- オンラインによる視聴 → *****(省略)****

東京会場

令和4年12月14日(水)13時30分より

- 会場で視聴 → 東京都立産業貿易センター浜松町館(2階展示室)
- オンラインによる視聴 → *****(省略)****

会場での聴講、
オンラインによるリアルタイム配信
(入場無料)

日時	内容等
11/28 (月)	<p>基調講演</p> <p>13:30 ~ 14:30 1 支援機器の可能性と開発にあたって ～アクセシビリティとは?～</p> <p>東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部 准教授 高尾洋之</p> <p>「アクセシビリティ」という考え方のない価値観だと、人々の様々な障害は「不便であり不幸」です。一見この2つの言葉は不可分で正しいかのように思えます。しかし私自身も病気をして実感しましたが、そんなことは決してありません。不便であることが解消できないと勝手に思い込み、当事者も周囲の人も諦める、あるいは諦めさせることが不幸を生んでいるのです。障害者、健常者関係なく全ての人が、不便であることを不幸にせず、マネジメントする方法を考える。これがアクセシビリティの基本だと考えています。</p>  <p>2015年4月より東京慈恵会医科大学脳神経外科および先端医療情報技術研究部を兼務、准教授。 同大学のICT推進プロジェクトリーダーになる。臨床において脳血管障害と網膜芽細胞腫の希少疾患治療などに取り組む一方、ICT医療の推進による臨床効果・医療経済効果などを研究。2018年8月14日にギラン・バレー症候群に罹患し障害者となり、現在リハビリ回復中であるが、いろいろなデジタル機器によるアクセシビリティ技術を使って仕事をしている。 厚生労働省と内閣官房での経験もあり、大学でもICTの講座を任せられ、東京都医師会のデジタル委員にも引き続き従事。障害者になってもアクセシビリティ技術を活用してICTの様々な方面の経験を積んでいる。</p>
12/14 (水)	<p>特別講演</p> <p>15:00 ~ 16:00 2 歩けない私と支援機器</p> <p>17歳で脊髄損傷により歩けなくなった私は、車いすマラソンと出会い、スポーツを手段として人生を切り開いてきました。それは特別な事ではなく、生きるために支援機器を使う日常生活の延長線上に「動作の精度を高める」ための身体と機器のマッチングを重ねる事だったのです。支援機器はできないことを補う単なる道具でなく、人生を豊かにするパートナーであると考えます。</p>  <p>一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟 常任理事 花岡伸和</p> <p>プロフィール 1976年3月13日 大阪府富田林市生まれ 1993年11月3日 バイク事故により脊髄を損傷、車いす生活スタート 1995年4月 車いすマラソンを始める 1999年1月 フェスピックバンコク大会出場 5000m銅メダル獲得 2003年 マラソン日本最高記録、トラック1500m日本記録 樹立(当時) 2004年9月 アテネパラリンピック出場 マラソン6位入賞 2010年12月 アジアパラゲームス広州大会出場 1500m銅メダル獲得 2012年9月 ロンドンパラリンピック出場 マラソン5位入賞 2012年 陸上競技を引退 2013年 パラサイクリング競技(自転車競技)に転向 2015年6月 パラサイクリング日本選手権大会優勝 2017年3月 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程(コーチング領域)修了 2019年11月 世界選手権大会テレビ中継解説 2021年8月 東京パラリンピックテレビ中継解説</p>

大阪会場 OMM(2階展示Aホール)

- < 公共交通機関のご案内 >
- Osaka Metro谷町線「天満橋」駅北改札口
 - 京阪電車「天満橋」駅東改札口
→ OMM地下2階に連絡(改札を出るとすぐに案内表示があります)
- < 駐車場のご案内 >
- 第一及び第二駐車場があります。なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。



東京会場 東京都立産業貿易センター浜松町館(2階展示室)

- < 公共交通機関のご案内 >
- JR 浜松町駅(北口)から徒歩5分
 - 東京モノレール 浜松町駅(北口)から徒歩5分
 - ゆりかもめ 竹芝駅から徒歩2分
 - 都営浅草線 大門駅から徒歩7分
 - 都営大江戸線 大門駅から徒歩7分
- 車いすで来場される方は、ゆりかもめ「竹芝駅」を利用してください。

